

震災後 10 年目イベント案について

【宮城復興局】

■ 企画の背景

今年度の震災後 10 年目イベントについては、局主導で進める観点から局内協議会担当者からもイベント案を募ったところである。

局内担当者から募ったイベント案は、3 班及び 2 支所から計 23 件あった。全体的な傾向は、「復興・創生期間の 10 年目」を迎えるにあたり、今まで培ってきた官民連携の各種取組を振り返るとともに、学び・修得したノウハウを全国に発信し、来たる次の災害に備えるというものであった。

具体的には、実際に復興庁が後押しして進めてきた被災者への見守りなどの取組みやマッチング、I・U ターン支援など、当復興局が実際に伴走してきたものである。この取組みや支援に関連して連携してきた NPO 団体や関係企業とともに、成果の検証や今後に向けた取組みについて、検討しディスカッションを行ったアウトプットを提言として発信するというものである。

テーマを分野別にみると「被災者支援」「産業支援」「伝承」「防災」「（自治体）連携」となり、多岐に渡っている。

次に、昨年度第 3 回意見交換会の各団体のイベントへのご意見をみると、「担い手育成」「多様な主体との連携促進」「復興の先の地方創生」「長期的視点教示」「残存する課題是正の対応」「地域間（産業間）格差是正」「未来志向」「発信重視」などがあり、多方面について言及されていることが分かる。また、キーワードとして「連携」「検証」「継続」などを多用されておりその概念をくみ取る必要を感じる。

これらは「協議会の目指すべき役割」について、期待を含めて発言されているものであり、特に、協議会設立当初から目標としてきた「連携推進による創造」に繋がるポイントとなる 10 年目の総括として重要な視点ではないか。

以上のことから、多くの分野の中から 1 つか 2 つに絞って取り上げるというスタンスではなく、「連携推進」に焦点をあて、そこを切り口にしてテーマとすることを提案する。

■ 企画の目的

東日本大震災から今までに実施した官民連携の多様な取組について、連携先の NPO や民間企業などともに、「連携」を切り口にして振り返り・総括を行うことで、今後なお一層の連携強化に寄与することが主目的である。

また、振り返りの結果を全国にも発信することにより、官民連携の多様な取組を通じて蓄積したノウハウ（特に宮城県内で独自に発展したもの）が他地域での地方創生の取組に応用されること、および宮城県が「連携」を通じて復興・創生に取り組んでいる地域として全国から認知されることも第二の目的とする。

■ 企画の概要

東日本大震災から今までに実施した官民連携の多様な取組について、「連携」を切り口にした、基調講演・分野ごとのグループワーク・パネル展示を行うイベントを開催する。

基調講演では分野を特定せずに広く全般的に宮城県内における「連携」の取組とその役割・成果を振り返る。その後、「①被災者支援」「②産業支援」「③まちづくり」の分野ごとに関係者同士でグループワークを行い、各取組を振り返り、今後の課題や将来像とそのために必要な「連携」の姿をまとめる。グループワーク後には、各分野の討議結果を共有し合い、全体の総括を行う。

■ 参加者像

✓ 宮城県内における官民の復興・まちづくり事業の従事者

（特に、意見交換会出席者と連携して事業を行ってきた方、および「他の団体の取組を知りたい」、「振り返りや他者とのディスカッションを通じて、自団体や地域の取組をより良くしたい」とお考えの方）

→意見交換会出席者（復興庁含む）から直接参加を依頼する予定

✓ 一般の県民

（「連携」による復興の成果を地元の方に知ってもらうことにより、取組自体や発信に理解・協力いただくことが狙い）

※分野ごとのグループワークではメインテーブルではなく、傍聴席参加の想定

→メインターゲットではないが一般募集を行う

「東日本大震災における「連携」の果たした役割について（仮称）」

企画案

I 当日プログラム

i 基調講演（約 45 分：講演 約 40 分＋質疑応答 約 5 分）

【登壇者】

東日本大震災に当初より広く関わり、現在も東北のために多様な主体と「連携」しつつ尽力されている方に講演頂く。

【内容】

分野を特定せず全般的に、宮城県内における震災から今までの復興状況と、復興を支えた官民連携の取組を振り返っていただく。取組例をもとに、宮城県の復興のために「連携」が果たした役割について言及頂く。

ii 分野ごとのグループワーク（約 1 時間 45 分）

【参加者】

関係する NPO 団体や企業など多様なセクターに参加頂く。（各分野とも事務局等を含めた参加者が 30 名以上の想定のため、全体で 100 名程度の規模となる予定。）

【内容】

分野ごとにグループワーク（ディスカッション）を実施し、特に宮城県内で独自に発展し成果のあった「連携」の取組について共有・検証しながら、全国に発信する内容にまとめる。

冒頭に参加者の代表者から「連携」の取組内容を紹介（事前に参加者には資料等を共有し、紹介は簡略化する）。その後、参加者全員で取組の成果・成功要因（≡ノウハウ）の振り返り、今後の課題や将来像、そのために今後目指すべき「連携」の姿について討議頂き、今後、全国での取組みに活かせるようなアウトプットを期待する。

- ① 「被災者支援」における「連携」（被災者支援班が主担当）
- ② 「産業支援」における「連携」（産業支援班が主担当）
- ③ 「まちづくり」における「連携」（両支所が主担当）

iii 総括（約 30 分：（発表 5 分＋質疑 3 分）×3 分野＋総評と挨拶 5 分程度）

【参加者】

イベントの参加者全員（基調講演登壇者、分野ごとのグループワーク参加者、一般の傍聴者含む）

【内容】

「ii 分野ごとのグループワーク」の結果をそれぞれ全体に向けて共有し、質疑応答を行う。この結果を踏まえて、イベント全体の代表者から総評と今後に向けたメッセージを話し、閉会とする。

iv パネル展示

【内容】

i ～ iii と並行して、宮城県内における現在の復興状況や、これまでの復興の取組に関する事例と成果などを振り返るためのパネル展示を会場内で実施する。（各副代表団体にもパネル展示をご依頼する。）

II 時期

11 月下旬

※来年度 1 回目意見交換会（6 月頃）でイベント概要について決定し、2 回目（9 月頃）に詳細内容について了解頂いたのち、登壇者等の参加調整を実施することから、逆算すると早くとも 11 月下旬以降となる。

III 場所

仙台市内

- ・ 広く参加いただけるようにアクセスが良い仙台市とする
- ・ 会場の規模感については、協議会の予算規模によるが最大で 150 名程度（i と iii は同一会場で、ii は別に 3 部屋用意する又は i iii の会場を 3 つに区切って使用する）
- ・ パネル展示も実施することから、一般市民が気軽に立ち寄れる会場を選定する

【補足】仙台市 せんだいメディアテークを第一候補として検討中

【機密性 2 情報】

【補足】

- ・ i については、広く一般の方にも分かりやすい内容として講演頂く。震災発生から 10 年目を迎え、節目としての振り返りを行いつつ、「連携」が果たした役割や教訓・ノウハウなどの伝承の必要を広く認識して頂く場とする。なお、イベント全体を通じて、震災時の厳しい状況の中、復旧・復興に尽力頂いた方々へ「感謝の意を伝えたい」という意向を含めて講演いただけるよう依頼をする。
- ・ ii については、分野ごとに専門的なディスカッションを期待し、当復興局が実際に伴走してきた取組みを検証し、課題の共有や今後の目指すべき「連携」まで掘り下げて議論して頂く場とする。（取り上げる内容については担当班が中心となり決定するもの。テーマにより他の班との関わりがある場合は適宜協力を依頼のこと。）
- ・ 参加者については、i については広く一般参加者及び関係者とし、ii 及び iii については、関係者を中心とするが、一般の方もオブザーバー的に参加頂く場として設定する。

【次回意見交換会までの予定】

- ・ イベント案については、当局でまとめたテーマ案の趣旨を、意見交換会メンバーに事務局を通じ事前了解を頂いたのち、来年度第 1 回意見交換会に諮るもの。
- ・ 来年度第 1 回意見交換会までに、局主体で詳細な部分を詰めていき、受託業者とともに事務局提出資料を作成する。
- ・ 担当班において登壇者の調整や打ち合わせ（TV 会議等含む）に参加し、地域への情報共有を図る。

※ 宮城局案は、意見交換会での各協議会副代表団体からのご意見により修正されることを承知のうえ提案する。

(参考) 議事録 【次年度の取組について】

～総括～

次年度も今年度の取組の方向性を踏襲し、担い手育成にフォーカスした復興の振り返りを行うことや、東松島での「実践の場」をより強化して継続・展開する案が挙げられた。また、取組の検討にあたっては、協議会自体のあり方を検討することや、地域間格差・産業間格差を考慮することも必要との指摘があった。

別の観点では、10 年目の節目であるため過去の振り返りのみならず未来志向での発信が必要であり、特に短期的な目線をもつ事業者との溝を埋めることができるとよい、との意見もあった。その他にも、東北地域で持続的に成長・発展していくためのエコシステムや、「新しい東北」の考えに基づいた地域課題解決を再認識することの必要性について意見が寄せられた。

～イベント検討関係抜粋～

○次年度への各団体の取組み

- ・次年度は9年間やってきたことの成果を検証。
 - ・次年度のシンポジウムは10年目を意識した取組を学内や学外との連携を考えながら検討。
 - ・10年目を迎え復興支援は継続し、未来志向化へ。
 - ・復興の検証を踏まえた平時の仕組みや体制づくり、災害時の連携体制・役割分担の検討。
- また企業や自治体との連携が重要。
- ・復興を通じて生まれた連携・繋がりを発信。振り返りのほか新しい担い手への引継ぎが必要。

○次年度の意見交換会での取組アイデア

<協議会のあり方>

- ・協議会自体を知ってもらうことは必要。また、復興の先の地方創生にも繋がるのが願い。
- ・面的に繋がる重要性を再認識するため、引き続き協議会として連携を促進することは大切。

<未来志向>

- ・10年を総括するだけでなく、継続して次に「新しい東北」が何を指すのか、未来志向で発信すべき。
- ・既存の事業者が新規事業創出との間で、継続できる事業基盤をつくる必要がある。

<その他>

- ・イベントについてコンセプトやキーワードを決めたらどうか。また、持続的に成長・発展していくシステムも検討必要。

【機密性 2 情報】